

学校関係者評価結果報告

学校関係者評価

—学校関係者評価委員会—

さいたま市立高等看護学院、学校関係者評価委員会は「令和3年度学校運営評価」の評価結果に基づいて学校関係者評価を令和4年2月24日に実施いたしました。

1 学校関係者評価委員

	氏名	所属
1	長沼 智恵	保護者
2	川上 千津子	卒業生
3	泉 文子	外部講師
4	白井 光子	実習先：指扇療養病院 看護部長
5	石井 素子	実習先：保健福祉局市立病院 看護部 副看護部長
6	高橋 勝明	実習先：保健福祉局市立病院 病院経営部 病院経営部病院総務課長

2 学校関係者評価

カテゴリー	自己評価点	学校関係者評価委員の意見
I 教育理念・目標	3.6	令和4年度からの新カリキュラム開始に伴い、教育理念、目的、目標の見直しを行っているが新たなものについては、学生間、職員間で浸透できるような工夫をお願いしたい。
II 学校運営	3.4	昨年度より自己評価が0.2下がっているが評価を聞いている限りではマイナス要因は見られないのではないかと。学校運営会議、学校評価委員会など他社からの意見を取り入れ運営に生かしていることがうかがえる。引き続き、さいたま市に貢献できる人材の確保と育成という点で努力をお願いしたい。
III 教育課程・教育活動	3.5	新カリキュラムにおいても「さいたま市及び社会に貢献できる看護師の育成」を目的とし、アドミッションポリシーではどのような学生の育成を目指し、どのような学生を求めているのかが書かれているため学生にはよりわかりやすくなったのではないかと。業者テストを取り入れ学生の学習や傾向を分析して学生指導をしているところは評価できる。コロナ過において学内での実習が多くなり、コミュニケーション能力や看護実践能力の低下にならないよう努力をしていただきたい。いろいろなことで新たな取り組みをしていることがうかがえる。評価が厳しめだが学校としての評価点のままとする。
IV 学生募集と受け入れ	3.7	学生確保に向けての努力をしている。コロナ過の中で感染予防に努めながら工夫をされて学校見学会の開催がされていた。また、学校の教員向けの学校説明会を継続し、学生確保に向けての努力がみられる。企画会議では次年度の学生確保について話し合われており学生確保についての早々に対応ができるよう準備がされている。公開講座については今後の広報活動の方法について考えていただきたい。コロナ過での公開講座でもあり参加人数についてはその影響もあるのではないかと。

カテゴリー	自己評価点	学校関係者評価委員の意見
V 卒業・就職	3.7	成績の低迷者へのフォローだけではなく、各学生にアドバイザーや担任から学習や生活指導が行われる点は評価できる。また、データを活用しての学生支援についても効果が伺われる。引き続き、教員間での情報共有を共有し、学生支援に努めていただきたい。コロナ過という状況を考えるともう少し評価を上げてよいのではないか。
VI 学生生活への支援	3.7	昨年度より評価点は変わらないが休学者や退学者が出ないようにアドバイザーと担任とで支援している様子うかがえる。今年度は、カウンセリングの回数を1回から2回に増やしており精神的なフォローを行っている様子うかがえる。学生に対する対応もしっかり出来ているのではないかと。また、経済的な理由から学業が受けられないことのない様に今後も支援をしていただきたい。
VII 管理運営・財政	3.6	教職員が学院の財務状況について報告を受けることはどのように学校運営がされているのかをきちんと知るためにも機会を設けていることはとても良いことだと思う。また、学生を巻き込んだエコ活動を行ったことは評価できるので継続的に進めるよう学生・職員の意識を高めていってほしい。
VIII 法令等の遵守	3.6	昨年度、教職員が学生に意識的にコンプライアンスについて意識的に教育していくことが課題としていたがその点についてどのような取り組みがなされ何が課題になっているのか明確にしていくことが必要なのではないかと。学生に対しての情報の守秘義務等についてはきちんと教育されていることがうかがえる。
IX 施設設備	3.7	ICT化に向けて少しずつではあるがオンライン授業等ができるようになったのはよいと思われるが引き続きICT化に向けての検討をお願いしたい。学生が研究や学習の効果をあげるために文献検索システムの導入については昨年度の課題としていたところでもあった。次年度から文献検索システムの導入が計画されているが学生が学習に役立てるよう活用して欲しい。
X 教職員の育成	3.5	コロナ過での学会への参加、研究授業の実施など工夫が評価できる。研究授業では外部の先生の参加があることで刺激や新たな気づきも得られることから、継続的に続けていることは評価できる。コロナ過での制限の中でできることはしていたという努力がうかがわれる。評価としては昨年同様の3.5の評価でよいのではないかと。
XI 広報・地域活動	3.5	昨年度の課題としていたホームページについてはタイムリーに公開講座、学校説明会等について載せられていた。また、ボランティア活動についてはコロナ過であり大変な状況ではあるが限られた活動の中で出来るものを探し実施しているところは評価できる。また、学校施設の開放についてはコロナワクチンの予防接種場として開放するなど地域への貢献が伺える。HPについては学年単位での活動がわかるものを入れて学生生活がわかるものがあると学校に対して興味がわくのではないかと。HPで学校の魅力がわかるような内容ができるとよいのではないかと。

<総評>

令和4年度から新カリキュラム開始に伴い、教育理念・目的を新たにし、時代の変化に即した内容に落とし込めたのではないかと。そして、カリキュラムポリシーとアドミッションポリシーを示されたことでより良い学校づくりのために教員・学生がともに認識し、共有できる内容になっていると思う。

自己評価としては前年度より下がっている項目もあったが、長引くコロナ過において試行錯誤しながら取り組まれていることも理解できるし、適切な評価をしていると感じた。

まだまだ、課題が残る部分もあるので、今後も学校運営の質が高められるように外部を含めた関係各所との連携を強化し、学校づくりを進めていって欲しい。